

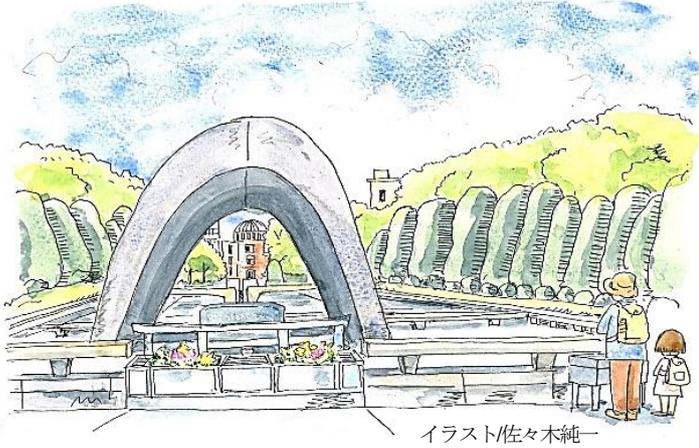
ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議 広報紙 第50号 2020年11月

目次

- 「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告) . . . 1~3
- 選挙のお知らせ送付方法の要請(報告) 3
- 「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告) 4
- ひろしま WENET からのお知らせ、
- 編集後記 広報紙発刊50号によせて

「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告) 2020年7月31日



イラスト/佐々木純一

慰霊碑を中心に東西二手に分かれて静かに行進しました。ろうそくの炎が夕風の微風にチラチラとゆらぐなか、被爆者の岡田さんと高校生平和大使が世代を超えて笑顔で言葉を交わし、進む道を確認しながら歩くその姿に、「継承」という二文字が心に浮かびました。

つどいの開催意義を改めて考える

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために規模を縮小し、三密を避けるため万全の対策をして臨むこととなりました。が、そこに至るまでは様々な問題にぶつかりました。それは同時に、原点に返って「開催する意味」を改めて考える機会ともなりました。「ヒロシマを学び伝え行動する」という気持ちはブレることなく、それどころかこの思いに賛同して応援して下さる方の出会いもあり、温かい真心に後押しされるかのように前へ進むことができました。「合唱ができないなら楽器で演奏を」と、惜しめない協力を申し出て下さった篠笛奏者の梶川純司さん、出遅れて広報手段に困っていたところチラシに優しいタッチで原爆死没者慰霊碑のイラストを描いて下さった佐々木純一さん、コロナ禍にあっても、思い出すのも辛い被爆体験を語って下さった岡田恵美子さんなど、たくさんの方々のお力添えによってこの集いが開催できましたこと、心より感謝申し上げます。



被爆75年目の夏、「ヒロシマ平和の灯のつどい」を開催しました。この集いは、市民をはじめ、国内外の観光客とともに、原爆犠牲者の冥福を祈り核廃絶と恒久平和を願い広島から世界にアピールするもので、今年22回目を数えました。

第一部は広島平和記念資料館地下のメモリアルホールにおいて、岡田恵美子さんから被爆体験と核兵器廃絶への切実な思いをお聴きました。その後、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑前に場所を移し、午後7時から第二部がスタートしました。

第23代広島県選出の高校生平和大使によって、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けられる「平和の灯」から採火が行われ、参加者全員が持つろうそくに分火。続いて、カザフスタン被爆者への鎮魂歌「ザマナイ」の曲が流れる中、高校生平和大使を代表して、柚木優里奈さんが平和への思いを力強く語られました。それは、未来への希望を感じさせてくれるメッセージでした。

原爆死没者に黙とうを捧げ、いつもなら全員で合唱する「原爆を許すまじ」を今年は梶川純司さんが篠笛で奏でて下さいました。その音色は、平和の池の水面を撫でるように優しく響き渡りました。その余韻を胸に、参加者はろうそくを手に原爆死没者

被爆者の証言を聞く会に思う

岡田さんの全身全霊をかけた証言に参加者はじっと耳を傾けていました。

印象に残ったのは、最後のほうで語られた一言。

深く息をのみ込んで、「私は夕焼けが大嫌い。今でも燃え盛る街のあの光景を思い出して胸が苦しくなるから」。

75年という年月が流れても原爆は今もなお岡田さんに重くのしかかり苦しめています。

会場には若いお母さんとともに幼児が静かに座っていました。岡田さんの目は始終そこに向いていました。その幼子の存在は「大嫌いな夕焼け」を一瞬忘れさせてくれたに違いありません。

岡田さんは後でそとこう囁かれました。「聞いている子

どもたちの真剣なまなざしから明日への元気をもらった」と。

未来の子どもたちに何を伝え遺すのか、私たちの行動が問われています。(学習部会 西村宏子)



岡田恵美子さんの証言



8歳の時に爆心地から2.8キロ離れた自宅で被爆しました。

8月6日の朝、空襲警報が解除されたあと母と弟と朝食をとっていると、外がピカッと光って体が吹き飛ばされました。

気づいたら自宅は傾き、外に出てみたら隣近所の家からはるか遠くまで、全ての家が傾いていました。しばらくして広島中に火が発生

し、火が追いかけてくる中を逃げたのです。周りには、髪の毛が逆立ち、誰かわからないくらい身体が膨れ上がっていて、皮膚が垂れ下がったり、肉がぶら下がったりした人が大勢いました。多くの人たちは服を身につけていませんでした。爆風と熱風で目玉が飛び出ている子どももいました。全身真っ赤に火傷した遺体を見た時は足がすくんだことを覚えています。

目の前で苦しんでいる人を助けてあげることもできず、また誰も助けられる状況でなく……私も……そんな人を置いて逃げたのです。それが現実なのです。

ようやく火が収まった時には、大人も子どもも多くの人が灰になっていて、広島市から瀬戸内海の青い海が見えるほど、何も無くなっていました。

当時12歳だった姉(美恵子さん)は爆心地近くに建物疎開作業に出たまま、いまだに遺骨さえ私たち家族の元に戻っておりません。核兵器で犠牲になる子どもは、私の姉が最後であって欲しい。広島原爆で亡くなったのはその年のうちに約14万人といわれています。奪われたのは一人一人の命と魂なのです。

証言活動を続ける中、インド・パキスタンを訪れたことがありました。路上生活をしている子どもたちが、私のところにインドとパキスタンと日本の旗を描いたパネルを持ってきて『日本の若い人と友達になりたい』と言ってくれました。私は、そうか、こんなふうに身近な人と向き合って仲良くなり、それを広げていって世界の人たちと手をつないでいかなければいけないと思いました。

核廃絶がなかなか進まない現実無力感を感じることもありますが、ここで諦めたら核のない世界は実現しません。誰でも『世界平和』『核廃絶』という言葉は簡単に言うことはできますが、それぞれ得意な分野を生かして行動して欲しいと思います。

高校生平和大使あいさつ

第23代高校生平和大使の柚木優里奈です。

私たち高校生平和大使は「核兵器廃絶と平和な世界の実現」をめざして署名活動を行っています。

「私たちの思いを伝えてください」と言ってくださった被爆者の方。目に涙を浮かべながら署名してくださった外国人の方。集めた署名には一筆一筆に平和を願う強い思いが込められています。私たちはその一人ひとりの思いを大切にしながら活動しています。

75年前の8月6日、一発の原子爆弾によってたくさんの尊い命が奪われました。今もなお多くの方が原爆の被害で苦しんでいらっしゃいます。核兵器は人類の安全と安心を脅かす非人道的な兵器です。核兵器が地球上に存在しているという状況を決して許してはいけません。

私は、核兵器を廃絶するために、今、平和の灯に思いをはせて、心をあらたに次のことを決意します。

正しい事実を知り、深く考え続けること。仲間を作り、活動を広げていくこと。そして、核兵器を廃絶したいという思いを持ち行動し続けることです。

核兵器が廃絶される日まで燃え続けるという平和の灯とともに、私は訴え続けます。

みなさん、思いを一緒にして被爆地ヒロシマから平和への思いを世界に発信していきましょう。



広島市選挙管理委員会へ

「選挙人に対する『選挙のお知らせ』の送付方法に対する要望書」を提出

10月1日、馬庭市議会議員、山本会長、西村副会長、貴田啓発部会長の4人で広島市選挙管理委員会を訪ね、事務局長の橋場聡子さんへ「選挙のお知らせ」を個人あてに送付するよう「選挙のお知らせの送付方法に対する要望書」を提出しました。

選挙管理委員会の返答は「経費節減のため」「予算がない」と繰り返すばかりでした。他都市の状況についても返答がなく、馬庭議員が調べてくださることになりました。

せめて、「検討してみましよう」の言葉が聞きたかったです。

いろいろな団体が要望書を提出すれば、選挙管理委員会も市民の声を聞いてくださるのではないのでしょうか。(山本)



2020年10月1日

広島市選挙管理委員会
委員長 二國剛昭 様

広島市女性団体連絡会議
会長 山本 紀子

選挙人に対する「選挙のお知らせ」の送付方法に対する要望書

日頃より「公正で明るい選挙」「投票率の向上」のためにご尽力されておられることに敬意を表します。

さて、広島市は2015年4月の統一自治体選挙で、これまで選挙人一人ひとりに「選挙のお知らせハガキ(投票所入場券)」を送付していたものを、世帯主あてに一括して封筒に同封して送られました。「選挙権は一人ひとりにあるもので世帯主あてに送るのはおかしい」と選挙管理委員会に問い合わせると「国の指導で経費削減のために行った」との回答でした。

選挙権は選挙人一人ひとりに与えられた権利です。経費削減のために世帯主あてに送ることは一人ひとりの人権をないがしろにするものです。また、世帯主規定はジェンダー平等社会をつくる上で障害となっています。

日本で男性に対する普通選挙権が認められたのは1925年、戦前戦後、「婦人参政権」を求める多くの女性の力で、1945年敗戦後女性に参政権が認められ、完全普通選挙権が認められました。先人たちの血と汗と涙の女性の選挙権獲得の取り組みがないがしろにされた思いでいっぱいです。

また、2016年の参議院議員選挙から選挙権年齢が18歳以上に引き上げられました。世帯主あてにまとめて「選挙のお知らせ」が送付されることは、知らず知らずのうちに選挙人個人として認められるのではなく〇〇家の△△さんという意識をうえつけられるもので、一人ひとりの権利意識を奪うものでしかありません。選挙人一人ひとりが「選挙のお知らせ」を受け取ることで選挙人であるという自覚を持つことにつながります。又、投票率の向上にもつながります。

「経費削減」の名目で、人権や民主主義がないがしろにされることは、断じてあってはならないことです。

よって、「選挙のお知らせ」を選挙人一人ひとりに送付されるよう要望いたします。

以上

「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告)

配偶者等からの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、決して許される行為ではありません。

国は、毎年11月12日から25日までを「女性に対する暴力をなくす運動」と定め、意識啓発を図っています。

その一環として、11月12日に広島市、国際ソロプチミスト広島-中央、ひろしまWENETが連携して市民への街頭キャンペーンを実施しました。コロナ禍でもあり、八丁堀交差点周辺で約20人がマスクと手袋着用で相談窓口等が書かれたポケットティッシュを渡しました。また、分かりやすい表現のパネルを掲げて目にも訴えました。

何人もの方から具体的な質問や、相談の声があり手応えを感じることができました。(学習部会 宮田保江)



広島県では、性被害にあわれた方が、プライバシーを守られながら、ワンストップで支援を受けることのできる相談窓口「性被害ワンストップセンターひろしま」を設置しています。24時間365日電話で相談できます。

専用電話：[082-298-7878](tel:082-298-7878)

性別を問わず性被害にあわれた方
ひとりで抱え込まないで、わたしたちに相談してください。

ひとりじゃないよ。
わたしたちが
よりそいます。

秘密厳守
相談無料
24時間
365日
対応

広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)からのお知らせ

★ ひろしまWENET 2021年男女共同参画セミナー

日時：2021年2月6日(土) 13時30分～16時

会場：合人社ウエンディひと・まちプラザ

(広島市まちづくり市民交流プラザ)

北棟5階 研修室A・B・C

テーマ：性暴力をなくそう！ー「いのちとこころ」ー

講師：弁護士 寺本佳代さん

★ 2021国際女性デーひろしま

日時：2021年3月7日(日)

会場：調整中

テーマ：核のない世界をめざして(予定)

講演：講師 宮崎園子さん

被爆証言：矢野美耶古さん

その他：若い世代の平和活動報告

編集後記

WENET 広報紙は50号を迎えました。男女共同参画社会の実現をめざし25年間歩んできたひろしまWENET。遅々として前進できない厚い壁。広島の女性たち、しなやかに強くたくましく前進しましょう。(Y)

WENET ニュース第50号 2020年11月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議(広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)

責任者 山本 紀子